

夏のご挨拶をかねて

令和3年度の

活動のご報告



特定非営利活動法人ぴーす

堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

電話 072-250-9060 FAX 072-250-9061

メール p-office@p-s-sakai.net

表 紙

ページ1 目次、ミッション

ページ2 あいさつ

ページ3 **保護者に届けたもの ～寄添う・高める支援～**

・ぱれっとプログラムで、自主的に支えあったもの

ページ4 ・ぱれっと特別セミナー 母たちの「学びたい」に答えて

・地域支援特別事業 あい・ふぁいる活用セミナー

ページ5 **相談に対応するもの ～寄添う・つなげる支援～**

・保護者からの相談 あいすて、ぱれっと ぴーすの支援プランセンター

ページ6 ・支援者からの相談 保育所等訪問支援 あいすて施設支援 通所事業者育成事業

ページ7 **情報を提供するもの ～伝える・広げる支援～**

・支援グッズのお店ぼっしえ ・メールニュースふぁにい

親子で、利用参加するもの ～育てる・高める支援～

・地域支援特別事業 おもちゃ広場

ページ8 **子ども・本人が参加するもの ～育てる・高める支援～**

・児童発達支援 ぴーすの児童デイぴころ

ページ9 ・放課後等デイ ぴーすの児童デイぱんだ

ページ10 ・放課後等デイ ぴーすの児童デイあぼろ

ページ11 ・地域活動支援センターぱれっと マラソンクラブ、しゃべり場、鉄道クラブ

ページ12 **啓発や連携をするもの ～広める・つながる支援～**

・講師派遣、他団体等とのコラボ、広報活動

ページ13 令和3年度を振りかえって

ページ14 事業一覧

～ ぴーすのミッション ～

信頼に応える、ぴーすらしい「プロフェッショナル」で

ぴーすのテーマである「えんばわ支援」を行い

エンドユーザー：子どもの夢を実現する

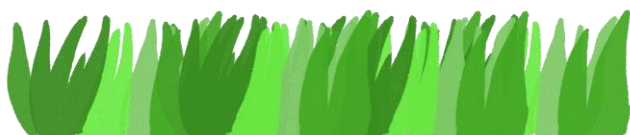
～ ぴーすのテーマ ‘えんばわ支援’ ～

子どもの「自ら、成長しよう」とする力を

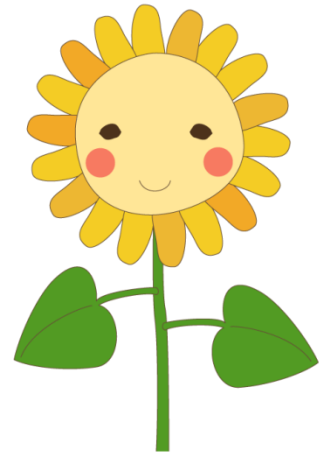
家族が「たのしく暮らそう」とする力を

周囲の「ともに生きよう」とする力を

めいっばい活かしてもらおう支援



暑中お見舞い 申し上げます



NPO 法人ぴーす 理事長の小田です。

いつも、ぴーすへの温かいご理解・ご支援・ご指導をいただき、ありがとうございます。

毎年、夏の暑い時期に、暑中見舞いをかねてお届けしている『前年度の活動報告』が完成しました。どうぞ、お受け取りください。

令和3年度も、コロナ一色。何度も変異して襲ってくるコロナに、翻弄された一年でした。

私も「いつまでこんなことが続くのか」とイライラしたり、落ち込んだりしました。ただ、ふと周りを見ると、創意工夫し『自分らしい暮らし方』を続けようとする仲間や知人がいて、生活を制限された時は「こんな時こそ！」と、支え合い・励まし合う人たちがいて、そんな姿に「人間ってスゴいな」と元気づけられました。

元気を与えてくれた一人が、私の息子（28歳）でした。息子は、最重度の自閉症。変化が大の苦手です。しかし、コロナ禍ではいきなり「陽性者が出たから、今日は生活介護が閉所」などの予定変更がありました。重い知的障害のため本人に「なぜ閉所か」を理解してもらう術もない中で、急な変更は何度も繰り返されました。でも息子はいつしか「世の中、そんなもん」と悟ったらしく。私のような不平不満を一切言わず、ありのままのコロナ禍を受け入れ、それでも自分らしく愉快に暮らすぞ！という姿勢でいました。その彼の「まっすぐさ」に、人として何が大事か教えられた私です。

コロナはある面、社会の元々のゆがみや弱さをあぶりだしたように思います。例えば、障害者医療。元々障害者の対応をするには脆弱で、その弱さがコロナ対応にも表れてしまいました。福祉サービスもそう。事業所によって対応に差があり、それは元々の人員不足や支援力の差だったように思います。私は支援者・利用者の両方の立場であるため、どちらの苦しさもわかり、複雑な心境になることが多かったです。ある時、爆発的な感染拡大する中で仲間のお母さんが陽性になり、でも支援が届かず「あきらめてガマンする」と・・・。社会の理不尽さを強く感じ、心の中に沸いた「そんなのイヤ！」という思いで、自分のできることを模索しました。思えば、このような事例が（形が違えども）様々に現れた一年でした。何が正解かは今でもわかりませんが、後日「ありがとう。今度は私が役に立てることがあれば言ってね」と連絡をもらった時、その言葉に・・・遠くにですが・・・光が見えた気がしました。

コロナに教えられたことの1つは『つながりあうこと』の大切さです。支援現場でも、私生活でも、互いの違いを「比べ合う・競い合う」のではなく、「認め合う・つながりあう」そして「支え合う・励まし合う」とことが重要。特に「いざという時」の力になるのは『誰かとつながっていること』だと実感した一年でした。

これからもたくさんの『つながり』が深く・強く広がりますように、私らしく・ぴーすらしく頑張ります。どうぞ皆様、おつきあいのほどを、よろしくお願いいたします。

令和4年盛夏

NPO 法人ぴーす
理事長 小田多佳子

保護者に届けたもの ～寄り添う・高める支援～

びーすは法人設立以前より、障がい児の母親同士の『支え合い』を大切に活動してきました。

同じ立場だからこそ、わかりあえる。我が子の障がいに気づき、不安に震える後輩を見れば「私もそうだった」と思いだし、力になりたいと思う。子どもの育てにくさに困っている母と会えば、「自分も同じ」と気づき、その解決を共に学ぼうとする。

この支え合いを、前身団体のボランティアグループ時代から、25年間続けてきました。

令和になって・・・、すっかり顔ぶれが変わりましたが、支え合い活動は続いています。

この活動を、びーすは『ぬくもり活動』と呼んでいます。

まずは、令和3年度の『ぬくもり活動』の中で **保護者へ届けたもの** をご紹介します。

■■ ぱれっとプログラムで、自主的に支え合ったもの ■■

「相談するほどじゃないけど、誰かに聞いてほしい」「先輩の話を聞いてみたい」

そんなニーズに応えるのが『母たちのおしゃべり会』。地域活動支援センターぱれっとのプログラムとして実施しています。

令和3年度は6種類を用意しました。それぞれメンバーの自主性を大切に、何をするかは数名のリーダー役と職員が定例会議を行って決めました。参加者はいつでも・自分に合うものを選んで参加。複数に参加する人も多くいました。

令和3年度の参加状況は以下の通りです。

プログラム名	内容	実施回数	延べ人数
ぼかぼか工房	工作好きな母たちがいろんな作品を作りながら、おしゃべり	18回	66名
わくわくワーク	おもちゃ消毒やパンフレット整備をしながら、おしゃべり	33回	75名
ふわふわモック	ぼっしえの支援グッズの企画検討しながら、おしゃべり	26回	87名
不登校かふえ ゆるり	不登校に悩む母たちがストレス発散しながら、おしゃべり	5回	20名
情報かふえ ほっと	障がい児に役立つ情報を、オンライン&対面でおしゃべり	2回	10名
リーダー会議など	毎月の定例会議、年3回の全体会議、セミナー打合せ等	19回	58名

令和3年度はコロナの影響で「ぱれっとプログラムの中止」が繰り返されました。

しかし、ぬくもりメンバーは「やっぱり会って、おしゃべりしたいね」と連絡をとりあい、自主的にぱれっとを貸切利用して活動を続けました。コロナ禍で重くなった心と不安を、おしゃべりで解消しあう姿は「これぞ、支え合い！」。

また、上記の集まりは毎月もしくは隔月に1回という『定期開催』ですが、それでは「日が合わない」「時間が足りない」などの理由で「別日でも活動したい」というリクエストがあり、追加の『特別活動』として実施しました。

上記の回数は、そのすべてを合わせたものです。



保護者に届けたもの ～寄り添う・高める支援～

■■ ぱれっと特別セミナー 母たちの「学びたい！」に心えて ■■

ぴーすが得意な「少し先輩の母が、体験談を元に講師をつとめるセミナー」や「専門家講師を招いてのセミナー」をぬくもりリーダーの企画で実施しています。コロナ禍で『オンラインセミナー』が広がりましたが、ぴーすでもいち早く取り入れて、今ではすっかり定着をしました。内容によって【ハイブリッド】【対面のみ】を決めて実施しています。それでも令和3年度のコロナ禍は厳しかった・・・開催をあきらめたセミナーもあり、実施回数は少なかったです。



以下、令和3年度の内容です。

※は、堺市手をつなぐ育成会とのコラボで実施

月 日	タイトル、講師等	形態	参加数
6月23日	とにかく明るい性教育『パンツの教室』 講師：パンツの教室インストラクター、看護師 平賀亜沙美さん	ハイブリッド	20名
6月29日 ※	子どもの困った行動～どう対応したらいい？※ 講師：堺市発達障害者支援センターアプリコット堺センター長 吉川 征延さん	ハイブリッド	35名
8月5日	「重度自閉症の未来の暮らし～ IT で広がる支援」 講師：ICT アクセシビリティアドバイザー（AAICT）中園正吾さん	対面	8名
10月20日	先輩ママにきく おしゃべり会～学校生活/進路について～高校編 ゲスト：私立高校、高等支援学校、高等専修学校に子どもが通う先輩ママ	対面	8名
10月27日	先輩ママにきく おしゃべり会～学校生活/進路について～中学校編 ゲスト：地域の中学校や支援学校中学部に子どもが通う先輩ママ	対面	9名
11月10日	先輩ママにきく おしゃべり会～支援学級/学校ってどんなところ？～小学校編 ゲスト：地域の小学校や支援学校小学部に子どもが通う先輩ママ	対面	8名
12月3日 ※	障害ある方の「働く・働き続ける」に向けて～今からでもできる事 知っておきたい事 講師：堺市障害者就業・生活支援センター「エマリス」センター長、松林利典さん	ハイブリッド	25名



■■ あい・ふぁいる活用セミナー ■■

ぴーすが受託している『堺市障害児等療育支援事業』 別名『あい・すてーしょん』といます（ぴーすでは略して「あいすて」と呼んでいます）。その「あいすて」に付帯するのが『地域支援特別事業』。内容は、親子の遊び場や保護者交流の場、学習会等を行うもので、「あいふぁいる」活用セミナーが含まれています。

「あいふぁいる」は平成23年度から堺市が推奨している【子どもへの支援をつなぎ広げるためのコミュニケーションツール】。このツールを開発する会議に理事長：小田が参加したこともあり、ぴーすではこの10年間、大切に啓発を続けてきました。セミナーは、ぴあリーダーである先輩母が対応。丁寧なやりとりをしながらの実施で対面になります。コロナ禍では人数を制限しての開催となりました。

＜実施回数 4回 参加総数 10名+ぴあリーダー8名＞

■■ 保護者からの相談 ■■

障がい児の相談支援は難しい…とよく言われます。確かにいろんな面で成人とは違う。母子保健・保育・教育の情報が不可欠ですし、その内容はどんどん進化しています。また子どもの状態も「愛着形成が重要な幼児」「大きな成長がある小学生」「思春期の問題が出る中学生」「進路が重要となる高校生」と変わりますので、「支援の内容」も変化させなければなりません。さらに子育て支援も大事。この情報も年々変化しています。つまり、児童の相談支援は成人とは違う専門性を持ち、常に情報更新することが重要です。



平成24年度から障害児相談・計画相談が開始されました。10年たった今、「障がい児の相談」というと、この『障害児相談』のイメージが強いようです。しかし実際は、サービスでは解決しない悩みが多いです。例えば健診で発達の遅れが発見された場合、最も重要なのは母の心のケア。小学校の通常学級でがんばる発達障がい児にサービスは必要ありませんが、母には「育てにくさや学校の悩み」があります。また、きょうだいのことや両親の不仲、地域とのつきあいなど、悩みがあふれています。ぴーすには年間を通じてこのような相談が次々と入ってきます。令和3年度は学校園からの相談を含めると、新規249名、以前に対応したケースの再度の相談が86名。相談対応の実人数が514名でした。先日「障害者基幹相談支援センター」7区の合計が新規268名、実数489名と伺いましたので、それに匹敵する数をぴーすでは様々な事業を駆使して対応したと言えます。

ぴーすが「保護者の相談」に対応する形態は、4種類です。

1. あいすて『来所での相談』『訪問しての相談』
2. あいすて『施設支援』の中での「保護者面談」「家庭訪問」
3. ぱれっとでの『来所相談』
4. ぴーセン『障害児相談』『計画相談』

4は契約での利用です。1～3は契約不要です。その役割分担は以下の通りになります。

受給者証	保護者からの相談	施設からの相談
未取得	あい・すてーしょん（外来・訪問）	
取得	ぴーすの支援プランセンター 地域活動支援センターぱれっと	あい・すてーしょん（施設支援）

ぴーすの支援プランセンター（ぴーセン）

障害児相談、特定計画相談

ぴーセンの『計画相談』は18歳以上も対象ですが、「児童の専門性」を高めつづけることを重視し、一定の年齢がきたら別事業所に引継ぐなどで『卒業』をしていただいています。これは利用者の理解あってのこと。承諾していただいた利用者の皆様には、心から感謝します。令和3年度も複数のお子さんが卒業されました。あるお母さんから「気づくと16年ずっと、ぴーすが側にいてくれた。心強かった。」という言葉をいただきました。支援者冥利につきます。卒業した子・保護者には、地域活動支援センターぱれっとを紹介し、本人は「成人後の地域活動の場として」保護者には「成人した後の相談の場として」つながり続けられるよう工夫しました。現在すでに数名が活用してくださっています。長いおつきあいができることも、ぴーすの幸せです。



なお、令和3年度のぴーセンは相談支援専門員の顔ぶれを一新してのスタートとなりました。担当者はすべての利用者と1からのおつきあいでしたが、利用者のご理解に恵まれ、信頼関係の構築をしながらすることができました。さらに「コロナ禍の工夫」としてサービス担当者会議のオンライン化に取り組み、年度末にはその形が定着しました。オンラインだと事業所の方も参加しやすいようで、また動画を一緒に見ることもあり、工夫次第でもっと良い形になりそうだと思っています。

■■ 支援者からの相談 ■■

ここ数年、保育所・幼稚園・子ども園や学校、デイサービス事業所など「直接、子どもたちへ指導・支援している人」からの相談が増えています。それを、びーすらしく支援するため、3つの形で対応しています。

1つめは、心理担当職員による児童のアセスメント（検査等で抱えている課題を明確にする）。

2つめは、教育と福祉が機能的に連携するための支援（相談支援の手法で）。

3つめは、保護者とのコミュニケーションを円滑にするための支援（ぱれっとのびあ相談を取り入れることも）。

事業形態は、『保育所等訪問支援』、『施設支援指導（あいすての1つ）』、『障害児通所事業者育成事業』です。

以下、事業ごとの報告をいたします。

保育所等訪問支援

保護者の依頼で、学校や保育所を訪問し助言等を行う福祉サービスです。コロナ禍での特徴としては保護者自らが学校園に行きづらいので「どんな風に過ごしているかを知りたい」という理由で利用希望があったこと。それもあって令和3年度は契約数が少し増えました。ただしコロナの影響で学級閉鎖もあり、実施数はあまり増えませんでした。訪問できない分、電話等で保護者や学校とのコミュニケーションを丁寧に行うなど工夫したことで、さらに学校や保護者との信頼関係が深くなったように思います。特に最近は、学校からの相談を受ける機会が増えています。

びーすのあい・すてーしょんによる『施設支援指導』

学校や保育所・デイ事業所など「施設」からの依頼を受け、相談や助言を行う事業。

この数年は常に依頼が入り、特に検査希望が多くて予約が数カ月先になったり、検査・説明の後の経過を確認したくても、次々入る依頼に追われ手が回らないという状況でした。そこで令和3年度は担当チームで「びーすらしい施設支援とは」を検討しなおし、「丁寧なケース対応」をめざすことになりました。

これまでおつきあいのある学校には「依頼すれば、すぐ検査してもらえる」というイメージもありましたが、年度途中から説明をしなおし「検査前の聞き取りやニーズ整理を丁寧に行う」という対応に変更していきました。年度が替わった今、この形が定着しています。一年を振り返ると「コロナで訪問ができない」「年度途中で心理士が減った」などがありましたが、訪問数は前年度と変わりなく行えました。新しい形での「信頼関係」が構築できたと感じています。



堺市障害児通所事業者育成事業

デイサービス事業所を訪問し、事業所が抱える悩みや困りごとに対して助言を行う事業。令和3年度は受託4年目でした。実施している4法人が2カ月に一度『連絡会』を行い、共通する課題などを見つけ、堺市全体の支援力アップにつながるよう取り組んでいます。研修も年3回実施しますが、令和3年度も前年度に引続きオンラインで開催しました。オンライン研修は多くの職員が受講できると好評でした。

令和3年度の相談対応について

本人・保護者などの相談			学校園、事業所からの相談			
担当事業	相談件数	実人数	担当事業	対応件数	実人数	施設数
保育所等訪問支援	216件	39名	保育所等訪問支援	501件	左記あり	22カ所
あいすて：施設支援	84件	20名	あいすて：施設支援	1209件	280名	67カ所
あいすて：外来など	344件	111名	通所事業所育成事業	71件	-----	13カ所
ぱれっと：来所相談	100件	52名	合 計	1,781件	319名	102カ所
びーセン：相談支援	1936件	81名	表にある「実人数」「施設数」は、重複あり			
デイの3事業所	168件	80名	法人全体では、実人数514名 施設数 99カ所			
合 計	2,842件	383名				

情報を提供するもの ～伝える・広げる支援～

ぴーすでは、障がい児子育てに必要な情報を、さまざまな方法（ツール）を使って提供する活動を行っています。担い手も、ぬくもり活動のメンバーです。令和3年度は、以下のような活動をしました。

生活支援グッズのお店 ぽっしゅ

障がい児の生活を便利にする『支援グッズ』の展示や販売をしています。活動はボランティアで行っており、来店した方がいろんなモノに出会えるようたくさんのサンプルを用意し、母目線で「ディスプレイ」しています。

特に令和3年度は「実際の暮らしの中で使用しているもの」

「使用する仕方」をわかりやすく展示するため、母スタッフが活躍しました。ますます魅力あふれる店内になっています。

また、店舗の半分は『PASSER（パッセ）』『じゅさんあっと堺』とコラボで行っている「障害者が作った雑貨・食品」の販売。残念ながら、コロナ禍では全くPRできていない・・・、一日も早く宣伝できるようになってほしいです。



メールニュースふぁにい

設立当初から行っている情報配信活動。情報収集や取材、原稿作成、配信登録といった活動はすべてボランティアライターが行っています。

購読者のスマホなどに火曜～土曜の朝、ニュースを配信。内容は、発達が気になる子どもの子育てに役立つあれこれ・いろいろ。令和3年度の配信数は、年間で348本でした。ボランティアライターは全員「障がい児の母」個性豊かな顔ぶれで、そのライターコラムも好評！ぴーす自慢の市民活動です。

購読者の声「ふぁにいメール」をいただくことでつながっていると感ずることができ、1人ではないんだと支えてもらっています。

親子で、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

おもちゃ広場

堺市（委託）地域支援特別事業

「親子の居場所、保護者の学習会、あい・ふぁいる活用セミナー等を、年間20回開催する」という事業。

受託7年目となる令和3年度も『おもちゃ広場』を、11月から毎週（水）に実施しました。場所は『ぴころ』です。おもちゃ広場の対象児は、1～2歳。健診などで発達のつまずきに気づいた親子が利用されます。この時期の親子はとてもナイーブで丁寧な対応が必要。そこでPRは保健センターのみにしぼり、担当保健師としっかり連携しながら支援をしています。

令和3年度はコロナの影響で、保健センターの幼児教室の人数・回数に制限があったことから、PRを開始した10月からおもちゃ広場への問合せが入り、希望者は年度末まで切れ目なく続きました。しかしおもちゃ広場もコロナ対策で人数制限をしていたため、早々に「希望者全員を受け入れられない状況」となりました。

そこで、隣接している『ばれっと』での「親子のあそび場」を開始。おもちゃ広場を利用した親子で、継続的に利用したいという希望者は「ばれっとのあそび場」に案内することで、希望者をすべて受け入れる工夫をしました。



支援内容は、これまで通り、相談員や先輩お母さんに相談、参加者同士での交流です。ぴーすならではの「親子でホッとできる場所」を提供しました。参加者からは「11月からの半年弱なんでもったいない、通年の開催をしてほしい」という声も聞かれました。私たちもその必要性を強く感じています

おもちゃ広場 <16回実施、参加親子数42組>

ばれっとあそび場 <30回実施、参加親子数73組>

両方の延べ参加数 168名

びーすの児童デイびころ

児童発達支援事業（放課後等デイサービスあり）

びーすの児童デイ事業の中で、びころは、主に就学前のお子さんを対象としています。平日は、在宅の1歳児や保育所等に通う園児で療育が必要な子を対象に活動しました。土曜は、センター利用の子を含め小学2年生までを対象として、趣味・余暇と出会う活動に取り組みました。〈利用契約数 31名（年度末） 利用延べ回数 1,143回〉



びーすの児童デイ
びころ

～スタッフより～

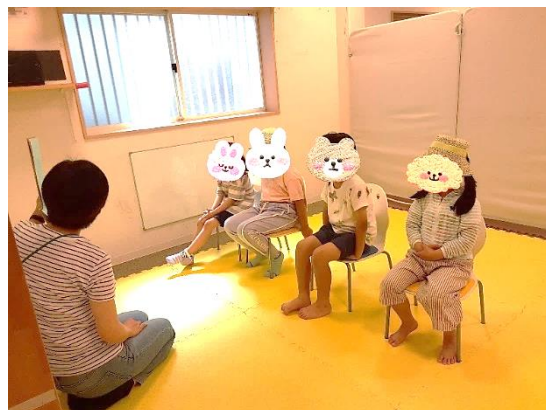
令和3年度の4月は「児童の大半が年長児」でスタートしました。みんな学年が上がり環境が変わった新学期、びころに来ると「顔なじみの友達がいる」という安心感が支えとなっているお子さんもいました。

利用児の中には「言葉をたくさん使ってはいるけれども、相手に伝わるコミュニケーションにはなっていない」

「相手の気持ちを理解する時のアプローチが必要」という子がいます。そこで令和3年度は幼児用 SST 教材を

活動の中に取り入れました。年長児が対象のクラスでは『場面のイラスト』を見てもらいながら、スタッフが質問して、児童個々の「状況の認知・理解力」「考え方等の傾向」を把握。その上で、個々に合わせて「場に応じた表現」を身につける練習をしました。不注意傾向の児童

には、日常生活の中で見落としがちな所を「イラストを見ながら確認」をしたり、表情カードの中から「他者の気持ちを予想する練習」を行ったり。すぐに効果が出るという訳ではありませんが、それでも「イラストを見ながら、自分の考えを率先して発言してくれた」「自分の気持ちと他者の気持ちが違うことに気づいている様子が見られた」という風に、徐々に子どもたちの成長を感じることができています。

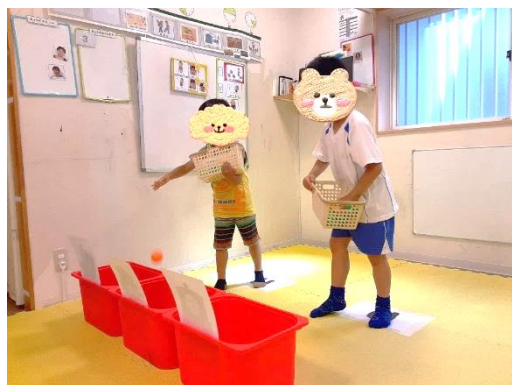


コロナで休校園が何度もあり外出しづらい一年で、びころの子どもたちも自宅待機の経験などをして生活リズムが崩れるといった影響を受けていました。

そこで「この状況下で、びころは何ができるか」を考え、みんなで公園に遊びに行く活動を積極的に取り入れました。広い空間で思いっきり体を動かして、ストレス発散！保護者から「外に連れていけないので、とても助かります」と感謝の言葉をいただきました。また、感触遊びとして小麦粉粘土を取り入れました。

カラフルな粘土を用意すると、子どもたちは大喜び！道具を使って、色々な物を製作していました。指先を動かしながら、触覚や視覚、嗅覚を刺激しながら、楽しく遊ぶ経験をたくさんしました。

「小麦粉粘土したい！」「いつするの？」と、次回を期待するお子さんもいました。



びころを卒業する年長児の多くは、就学した令和4年度からびーすの放課後等デイ（ぱんだ、あぼろ）に移られました。法人内で幼児期から学齢期へと継続した支援が行えていることをうれしく思います。

ぴーすの児童デイぱんだ

児童発達支援・放課後等デイサービス事業

ぱんだでは、主に放課後等デイサービスを実施。言葉の会話が可能な子を対象として、平日はSSTを組入れた活動など、土曜は集団で趣味・余暇の力を育む活動を行っています。

<利用契約数 40名(年度末) 利用延べ回数 1,742回>



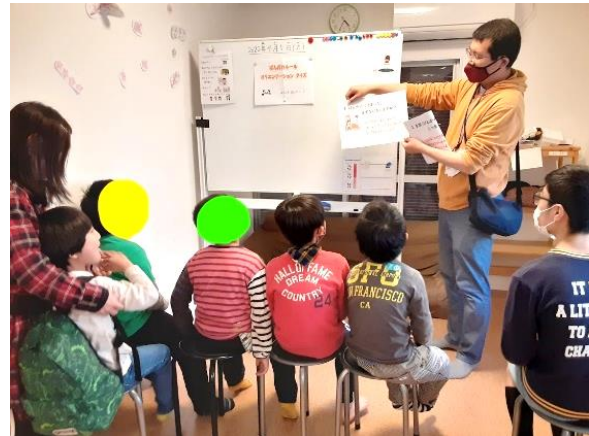
ぴーすの児童デイ
ぱんだ

～スタッフより～

令和3年度のぱんだは、小学校1年生から高校3年生と年齢差のあるメンバー編成となりました。

ほとんどが地域の小学校に通うメンバーなので、言葉でのコミュニケーション、対人関係、集団への適応などが課題となりました。

『〇〇くんと遊びたいけど、相手をしてもらえない・・・』
『□□ちゃんが、なんで怒っているのかわからない・・・』
など、日常的にSST(ソーシャルスキルトレーニング)の必要性を感じます。ぱんだのSSTは、毎日全員が揃う時間帯に行っている『みんなでトーク』があります。そこで個々に必要なスキルに合わせた内容を行っていますが、それだけでなく、たとえば活動中にトラブルが起きたら、それを「チャンス」ととらえ、スタッフが間に入りながら当事人同士で和解・納得ができるように支援を行いました。その経験の積み重ねで、子どもたちなりに、お互いの得意・不得意などを知って、相手のことを考える行動が見られるようになってきました。



夏休み等の長時間活動は、コロナ禍で外出も外食も行きづらかったため、その分、室内で自分の好きなことに「とことん取り組む」ことにしました。結果、好きなことが『得意なこと』に変わり、自信を持てる『趣味』が獲得できたようでした。



また、活動の中で中高生たちは自主的に『おしごと』に取り組みます。その先輩の姿を見て、小学生の後輩があこがれてマネをしたり、その後輩に先輩が優しく教えるという姿が日常的に見られました。



年度末、高校3年生数名が卒業しました。振り返ると、彼らは小学生～高校生までの長期間ぱんだで過ごしてくれました。卒業の姿を見て、日々の積み重ねがいかに大切かを強く感じました。卒業する彼らは「自宅でも活かせる家事のスキル」「人との触れ合いを楽しむ力」「自分の思うようにいかなかいた時の自己コントロール力」がしっかり身につけていました。卒業生は最後の活動として「ぱんだの後輩へのステキなプレゼント」を作ってくれました。また後輩たちも卒業生の最終日に花道をつくって見送ることができました。とても印象深い1日となりました。

ぴーすの児童デイあぼろ

児童発達支援・放課後等デイサービス事業

あぼろでは、個別の介護・支援が必要な重度障害児を対象とし、平日は自立に向けた生活訓練を、土曜は個別で行う趣味・余暇の力を育むプログラム活動を行いました。

<利用契約数 22 名（年度末） 利用延べ回数 1,650 回>



ぴーすの児童デイ
あぼろ

～スタッフより～

令和3年度のあぼろは、小学1年生から高校3年と年齢差のあるグループ編成でした。平日は例年通り、個別の活動がメイン。スケジュールを使い、それぞれ「遊び、学習、散歩や買い物などの地域での活動、家事練習など」を行う時間をあらかじめ設定し、見通しをもって、メリハリのある活動をしました。

小学生低学年メンバーは、おもちゃ遊びや工作遊びなどの『家の中の遊び』や『公園遊び』を取り入れ、「遊び」を豊かにすることを重視しました。お子さんによっては「人と関わりたい」気持ちが高まっている子もいます。その子には『スタッフと一緒に遊ぶ時間』

を設定し、他者に「一緒に遊ぼう」と伝える力や、「他者と上手に関わる力」を伸ばせるように支援しました。

イタズラでの注意喚起が多かった子には、工作遊びがヒットしたよう。正しい注意喚起の方法を指導したところ、スタッフに「これしたい！」とうまくアピールできるようになり、一緒に楽しく遊ぶことができました。

高学年、中高生チームは「自分で活動を決める」ことを重視。『公園遊び』『クッキング』『買い物場所』を選び自分でスケジュールを立てることにしました。また『しないBOX』を作成し「今日はしたくないな～」という気持ちを表現できるようにしました。ある子は以前から「怒る」ことで「やりたくない」を表現していたのですが、「しないBOX」を繰り返し練習すると、怒らずに「したくない」を表現できるようになりました。



長期休暇はコロナで外出などしづらかったので、小学生はクッキングや遊びの『グループ活動』をすることにしました。『友人と一緒に楽しむ時間』は平日とは違うムードなので、それも楽しめたようでした。

あぼろには、今年度で卒業を迎える高校3年生が複数いました。最後の長期休暇だし・・・と、コロナ前によく行った、『堺市役所へのお出かけ』を行いました。久しぶりの『電車での外出』でしたが、スケジュールを確認して落ち着いて行動することができたのは、やはり経験を積み重ねた成果だなと感じました。

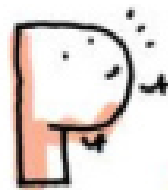
卒業生の最終日は、恒例のあぼろでの卒業式をしました。在校生代表は年齢の高い子。後輩からのプレゼントとして卒業アルバムを渡す役割を担ってもらいました。卒業生は手渡されたアルバムを嬉しそうに見て、お互いの写真も見せあいっこしていました。会話のない彼らですが、長い期間あぼろで過ごした友人同士、彼らなりの関係性ができています。その関わりあう姿は印象深く「1年が終わったな」という寂しさと達成感を感じました。



地域活動支援センターぱれっと

堺市地域活動支援センター事業 生活支援型 Bタイプ

堺市の地域活動支援センターは「一期3年間」の委託事業で、令和3年度は新しい期間（第4期）の開始年度でした。事業内容は、地域で孤立しがちな『障がい児とその家族』のための居場所支援と相談対応、そして週2回程度のプログラム。これらの活動で当事者の力を高める支援を行います。（受給者証や契約がなくても利用ができます。）



ぱれっとでは「障がい児と保護者」「発達障がい当事者」をメインターゲットとして、【障がい児母親が参加するプログラム】や、日頃学校や事業所等に通う青年などが参加できる【土曜日プログラム】を実施しています。母親向けプログラムは前ページで紹介をしましたので、ここでは「本人が参加したもの」をご報告します。

マラソンクラブ

第1土曜

～スタッフより～

令和3年度も、コロナで何度も中止になりました。その分、開催できた時はたくさんの方が参加されて、のびのびと「走ること」を楽しみ、会えなかった分の「おしゃべり」もたっぷりしました。また少ない回数でも新しいメンバーの参加もあって、笑顔あふれる活動ができました。

<全5回 延べ39名参加>



しゃべり場

第2・第4土曜

～スタッフより～

「ぴーすのいろんな事業で児童期に支援を受けていた子たちが、成人した後に自らの意志でしゃべり場に来てくれたら」と願って、回数を増やしたしゃべり場。

今では、すっかり定着。大人になった本人たちが来所して、楽しんでくれています。気づくと、しゃべり場のメンバーは中学生から60歳代までという幅広い年齢に。

またコロナ禍でも新規の見学や参加が複数あり、これからもどんどんにぎやかになる予感がしています。

<全14回開催 延べ93名参加>



鉄道クラブ

第3土曜

～スタッフより～

交流室にプラレールをいっぱい組み立てて遊ぶ鉄道クラブはどうしても「人との距離」が近くなります。そこで仕方なく「午前・午後の二部制」「各回、家族1組程度で予約制」という制限をしました。それでも広い部屋で鉄道を楽しむのは、コロナ禍でのよい息抜きになったよう。鉄道ファン家族が予約して楽しんでくれました。早く、複数参加で交流できればいいな！

<全6回 延べ28名参加>



ぱれっとプログラムは週2回程度の実施。その他の開所日は居場所支援をしています。

令和3年度の来所者数は、延べ1,197名でした。

啓発や連携をするもの ～広める・つながる支援～

外部からの依頼を受けて、講師派遣をしたもの

ぴーすは「啓発活動の一環」として、障がい児の母親や専門知識をもつ職員を『セミナーや勉強会・講演会』などに講師派遣を行っています。コロナ禍では依頼数がかかり減りました。またオンラインの依頼も入るようになりました。

令和3年度に派遣した内容は、以下の通りです。

依頼者	タイトル	講師として派遣した者
堺市	障害受容と保護者支援（あいさかいサポーター養成研修）	理事長
堺市	「あいふあいる」活用の実際（あいさかいサポーター養成研修）	理事長、ぴあリーダー
堺市	「あいふあいる」活用セミナー	理事長、ぴあリーダー
大阪府	虐待防止研修/サービス事業所対象【家族の思い】	理事長
新湊小学校	啓発授業【みんなちがって、みんないい！】	あいすて職員、ボランティア
通所事業者育成事業	『愛着』につまずきが見られる子どもの理解と支援について	心理担当職員
鳳、久世、赤坂台、浜寺、御池台、金岡南、美木多小学校	通常学級（学校生活）でつまずきが見られる子どもの理解と対応	心理担当職員
城山台、西百舌鳥、八下西小学校	愛着面でのつまずきを見せる子どもの理解と対応	心理担当職員
金岡小学校	教室でのUD化の工夫をどのように進めるか	心理担当職員
錦陵小学校	MIM 指導について	心理担当職員
安井小学校	ある児童へのアプローチについて	心理担当職員
さかいつくし子ども園	幼児期の発達を大切にしたい関わりとは	心理担当職員

他機関・団体との協働、協力をしたもの +メディア

毎年、他の団体や関係機関からの依頼を受け、保護者へのアンケートやイベントPR、商品のモニターなど、ぴーすからできること・として、様々なコラボや協力をしています。令和3年度もコラボといえば、授産品。パッセ・じゅさんあつと堺とのコラボで、ぼっしえで授産品販売をしています。協力としては、えんばわめんと堺のアンケート、大阪府立大学の市民活動紹介冊子の学生インタビューに対応しました。

ぴーすの広報活動

当法人の最も重要なターゲット「障がい児の母親」に、当法人の活動内容や魅力が届くよう、広報活動を行っています。中でも、ぴーすの活動をタイムリーに配信するためのツールが、ブログとFacebook。ブログは1つ『ぴーすのブログ』。ぱれっとのプログラムを中心に活動を報告しています。

Facebookは3つ。ブログと同じ内容で公開している『NPO法人ぴーす』と、3つのデイ事業所が合同で使用している『ぴーすの児童デイ』、生活支援グッズなどの紹介をする『生活支援グッズのお店ぼっしえ』の3つです。令和3年度はぱれっとプログラムの中止が相次ぎ、ぴーすブログ・FBがさみしい状態でした。その分公開を続けていたのが『ぼっしえのFacebook』。ボランティアが毎週のように原稿を作成。内容も母ならではの体験談たっぷりの見ごたえのある内容となっています。ぜひ一度、ご覧くださいね。



令和3年度を振り返って

外部、関係機関との連携

コロナで外部とつながりにくかった、この2年。でも不思議なことに、ぴーすではあらゆる事業・活動で外部とのつながりが進みました。元々ぴーすは複数の連絡会等に参加しています。デイサービス事業所の『さかい障がい児放課後連絡会』や通所事業者育成事業の『連絡会議』、障害児相談支援の『みのりの会』、いずれもぴーすは「事務局の一員」をつとめています。令和3年度は地域活動支援センターの『連絡協議会』がスタート。こちらでも幹事センターの一役を担うことになりました。つながることでお互いに良い支援ができるよう、これからもしっかりおつきあいしようと思っています。

また最近の特徴は、カンファレンスなどケースを検討する会議の数が増えていること。相談支援からのサービス担当者会議や子相・家児相とのカンファレンス、学校依頼のケース会議などに、ぴーす職員がそれぞれの立場で参加をしています。法人全体の回数、大まかな確認ですが、令和3年度は80回強になりました。コロナ禍の数ですので、今後はさらに多くなると思います。外部とつながりあう、それも「ひとりの子」のことで話し合うことは、とても意味あること。このつながりがもっと広がることを期待して、令和4年度は正確に数の把握をしようと思います。

ぴーす内での連携



ぴーすは複数の事業をしていますので、良い支援を行うために内部で「つながること」も重要。その工夫として『連携する会議』を複数、定例で実施しています。例えば、相談支援・地活・施設支援・デイで行う『ケース共有会議』、3つのデイ事業所で協力しあうための『責任者会議』。総務的な相談をする『連携会議』にはすべての職員が参加しています。会議は、自然と個々の職員にさまざまなつながりを作ることができ、有効だと感じています。

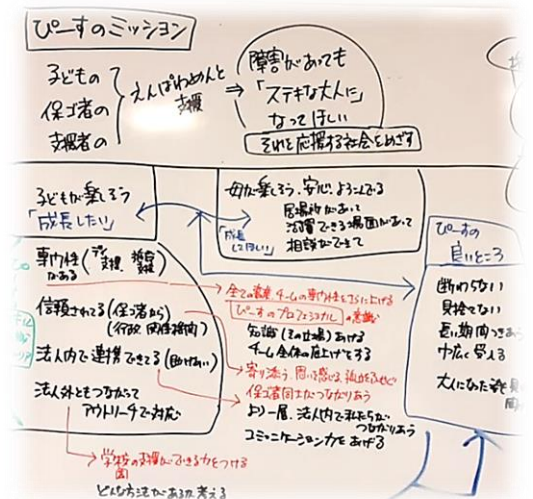
そんな中、令和3年度下半期からは、相談支援と施設支援や保育所等訪問支援の『合同ケース会議』が始まりました。開始した理由は、相談支援（サービス担当）の「保護者や事業所から学校に関する相談をよく受ける」、保育所等訪問支援の「学校から家庭や放課後のことを相談される」などがあり、自分たちのエリア外の相談に苦慮していたこと。やはり児童の相談は学校園とおつきあいが不可欠。「それならぴーす内で連携してみよう」と試験的に開始・・してみると、とても良かった！

そこで令和4年度から、本格的に相談支援・保育所等訪問支援の融合を進めることになりました。体制としては、「あいすて施設支援」「あいすて保護者相談」「地活の相談対応」を追加し、新しい『相談対応チーム』を結成。すでに新体制での支援を始めています。さらに、ぴーすらしいプロフェッショナルな相談対応が進むよう、がんばります！

ぴーすがめざすこと～職員研修より

ぴーすは年2回。職員全員での研修を実施しています。

特に秋の研修は全事業を休んで研修していますので、利用者の皆様のご理解に感謝しています。R3：秋の研修は各事業の実践報告の後に、「これからのぴーすを考える」をテーマに、グループワークを行いました。右はその写真です。「ぴーすの良いところは？」「大事にしたいことは何？」「その為に何が必要？」など皆で意見を出し合って気持ちや方針を1つにしました！その中で出たワードの1つが『断らない』でした。深い意味がある言葉です。断らないは「ただ受ける」ではない、また受けても「自分だけが関わる」のも違う。そんな深い言葉を、先日厚労省のHP「地域共生社会」の資料で見つけました。『断らない相談支援』どうやら次の時代のキーワードのよう。それが障がい児支援の中でどう構築されていくのか、その中でぴーすはどのような役割を担うか、令和4年度、しっかりみんなで熟考したいと思います。



■■ 各事業の説明 ■■ 令和3年度

<ぴーすの児童デイ ぱんだ／あぼろ／ぴころ>

事業形態 児童福祉法/児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、保育所等訪問支援事業（ぴころのみ）

実施場所 ぱんだ：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-19

あぼろ：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-22

ぴころ：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 ぱんだ・あぼろ 月～土：10:00～17:00 ぴころ月～火、木～土：10:00～17:00

<ぴーすの支援プランセンター>

事業形態 児童福祉法/障害児相談事業 障害者総合支援法/特定計画相談事業

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32 実施日時 月～金：9:30～17:30

<地域活動支援センター ぱれっと>

事業形態 障害者総合支援法/地域生活支援事業 堺市委託『地域活動支援センター生活支援型Bタイプ』

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32 実施日時 火～土：10:30～16:30

<ぴーすのあい・すてーしょん>

事業形態 障害者総合支援法/地域生活支援事業/障害児等療育支援事業 堺市委託

実施内容 ①訪問相談 ②来所相談 ③施設支援・助言など

対 象 ①は福祉サービスを利用しない児童・保護者/③は保育所・学校・児童福祉サービス事業所など

<地域支援特別事業>

事業形態 堺市委託事業 障害児等療育支援事業関連 堺市委託

対 象 堺市在住の障害児や支援を必要と認められる児童及びその家族、関係者

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32 実施日 年間20回

実施内容 おもちゃ広場、あい・ふぁいる活用セミナー

<堺市障害児通所事業者育成事業>

事業形態 堺市委託事業 障害児等療育支援事業関連 堺市委託

実施内容 機関支援 研修企画 実施機関との連絡会議

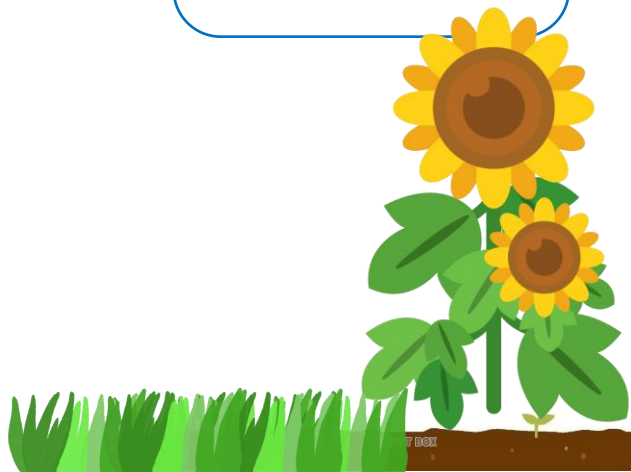
<ぴーすのぬくもり広場>

事業形態 市民活動

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

- ・生活支援グッズのお店 ぽっしゅ
- ・メールニュース『ふぁにい』
- ・講師派遣
- ・視察受入れ、アンケートやヒアリング調査協力など
- ・広報活動

令和4年度も
同じ事業形態で
活動いたします



これからも よろしくお祈りします。



作成 2022 年盛夏